

目指す学校像	子ども、教職員一人ひとりが自ら輝く学校 ○明るく活力のある学校○安全・安心な学校○保護者や地域と共にある学校
--------	--

重点目標	1 未来を担う子どもたちが先行き不透明な将来を力強く生き抜くための真の学力の育成と自主的・実践的な態度を育成するための教育活動全体を通しての意図的な指導 2 物的・質的な教育環境の整備と安全・安心の確保 3 学校を支えている地域・地域の人材、保護者を大事にし、地域・保護者と共にある学校 4 内にも外にも開かれた風通しのよい、また、組織を生かした学校・学年・学級経営
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標			年度評価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<現状・課題> ○学力 (R5 学力向上ポートフォリオより) ①【知識・技能】算数：除法の性質を用いて分数の除法を考えることに課題がある。 ②【思・判・表】国語：①話の中心を聞き手に伝えるための話し方に課題がある。 ③作者の心情や情景について、描写を基に捉えることに課題がある。 ④【主体的に学習に取り組む態度】児童の学習の調整が知識及び技能の習得などに結びついていない場合に、教師が学習の進め方を、個別に、適切に指導すること。 ○体力 (R5 新体力テスト結果より) ①男子：長座体前屈 (柔軟性) 全ての学年で R4 県平均、自校平均を下回っている。 ②女子：50m 走 (走力) 立幅跳び (跳躍力) いずれも5つの学年で R4 県平均、自校平均を下回っている。	未来を担う子どもたちが先行き不透明な将来を力強く生き抜くための真の学力・体力の育成	①学力向上アクションマップに則り、ポートフォリオの目標・策の設定 (4月)、学力向上策の実施 (通年)、全国学テ調査結果分析 (8月)、中間評価 (9月)、学力向上カウンセリング学校訪問 (2学期中)、市学習状況調査結果分析及び年度末評価 (2月) を行う。 ②学校行事と各教科等を有機的に連結させ、教育効果を上げる教育実践及び次年度年間指導計画の作成を行う。併せて適時性を備えた学校行事となる次年度年間行事予定をカリキュラムマネジメントの視点から作成する。(2学期末に作成スケジュール提示) ①課題解決のプロジェクト化を学校課題研修と絡めて実施し、教職員の学校運営への主体的な参画を促すとともに PDCA の経営サイクルを活用し次年度への改善を促す。(2学期末)					
2	<現状・課題> ○昨年度、学校自己評価に係る保護者アンケートにおいて、「学校は、登下校時や教育活動時の安全について指導を行い、安全・安心な学校づくりに努めている」の項目で、肯定的評価が92.2% (一昨年度比-0.3) であった。 ○昨年度、学校自己評価に係る保護者アンケートにおいて「学校は、児童が安心して生活できるよう、児童の気持ちを大切にしながら必お湯に応じて個別の支援やサポートを行っている。」の項目で、肯定的評価が81.5% (新規作成項目) であった。	物的・質的な教育環境の整備と安心・安全の確保 児童の心と体の健康管理に向けた組織的な生徒指導体制の構築	①子ども110番の家との交流等により地域社会、保護者を巻き込みながら校内・学区・通学路の安全性を向上させる。(2学期末) ②学校施設を共有する他の組織 (子ども居場所事業、チャレンジスクール、PTA 等) と共に学校施設の安全性や利便性を高めると共に、意図的計画的な予算執行等により子どもの健康や安全を維持できる環境整備を進める。(2学期末) ③教育効果を上げ成果を生み出すための会議室、Sola ルーム、整理させた教室等の整備と有効活用、備品・消耗品の整備を進める。(2学期末) ④経営の方向性を練る経営会議、議題を最小限に絞った運営委員会、職員会議、適切な判断と迅速な意思決定を可能とするブリーフィング会議を適時に適切に位置付け、学校の機動力を向上させる。(通年)					
3	<現状・課題> ○昨年度、全国学力学習状況調査 (6年) の児童質問紙調査において、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の問いに対して肯定的な回答が81.0%であり、県平均を3.2ポイント上回った。 ○しかし、市学習状況調査「生活習慣に関する調査」の地域とのかかわり等において、「今住んでいる地域の行事に参加しているか」「この1年間にボランティア活動に参加したことがあるか」の問いに対して、全ての学年で市平均を下回る結果となった。	内にも外にも開かれた風通しのよい、また組織を生かした学校・学年・学級経営 学校を支えている地域・地域人材、保護者を大切に、地域・保護者と共にある学校	①優れた教職員の経験や指導力の継承を可能とする校内メンターを取り入れた分掌組織を編成する。(年度当初) ①学校運営協議会においてめざす児童像を共有し、「家庭・地域と共に子どもを育てるための具体的方策」等、学校の課題解決に向けた熟議を行う。(2学期末) ②放課後子ども居場所事業等、自治会、PTA との連携により教育拠点としての学校の利便性を向上させる。(2学期末)					
4	<現状・課題> ○教職員28名 (管理職を除く) の平均年齢が38.1歳 (R6.5.1現在) であり、年代別では、50代以上7名 (25.0%)、40代3名 (10.7%)、30代10名 (35.7%)、20代8名 (28.6%) となっている。20～30代の教職員を合わせると、64%を超え、学校運営における中心である。学校の教育力を高めるための教職員一人ひとりの資質を更に向上させ、経験を踏まえることが課題である。	教職員の指導育成・業務改善	①教職員一人ひとりが自らのキャリア形成に向け資質向上を目指すことのできる研修奨励を行う。(当初面談時) ②教員一人ひとりが自らの課題をもち、主体的に解決を図る校内研修を行う。(通年) ③運営委員会に「働き方・業務改善検討委員会」を位置付け、定期的に業務の進め方についての振り返りを行い、改善に繋げる。(月1回) ④運営委員会に「倫理確立委員会」を位置付け、定期的に教職員の状況について情報交換、意見交換、必要に応じて相談を行う。(月1回) ⑤「鈴谷小パワーアップ講座」を行い、管理職、中堅教員、教員採用試験受験予定者、若手教員、希望者等を対象とした交流会や研修会を行う。(月1回)					

